

令和３年度 奈良市の地域教育を考える懇話会の意見の概要	
開催日時	令和３年１０月２１日（木）１０時００分から１１時３０分まで
開催場所	奈良市教育センター 中講座室
意見等を求める 内容等	令和２年度 奈良市地域教育推進事業について 令和３年度 奈良市地域教育推進事業について 今後の奈良市地域教育推進事業について
参 加 者	出席者 ９人 ・ 事務局 １５人
開催形態	公開 （傍聴人 ０人）
担 当 課	教育部 地域教育課
意見の概要	
事務局による概要説明の後、出席者に意見等を求めた。	
▶<u>事業アンケート調査について</u> ・ 広報を兼ねたアンケート調査というのは、先生にはあまり向かない。出来るだけ意見を吸い上げるような形のアンケートにしてみてもどうか。 ・ より多くの方にアンケート調査を依頼するのであれば、今まで取り組んだ事だけでなく、今後取り組みたい事やアイデア等を記述できる場所があるとよいのでは。 ・ 日頃から地域の方と接する機会のある教員については、アンケートで一定有効な結果を反映させることはできると思う。一般の教員については、地域への要望を含めて検討いただきたい。 ・ 実施したアンケート結果については、回答を受け止めて、何らかの形でこちらの考えをお示しする必要がある。例として座談会。 ▶<u>高度人材育成研修について</u> ・ 奈良市の特徴として沢山のコーディネーターがいて、皆でスキルアップを目指す形でこれまで進んできた中、一部の認定された人がこれからどう地域で動いていくのか、段階的な仕組み作りが必要。 ・ いい取り組みだと思うが、資格のようなものを出すことについて、持続性や質の保証等様々な問題がある。資格を出している他団体のやり方を参考にしてみてもいい。 ▶<u>大学との連携事業について</u> ・ 大学では地域と関わる機会がないため、地域を学ぶとても良い機会になっている。 ・ 教育大では、この大学との連携事業は学校フィールド演習という教職科目になっている。大学としてはこの演習で、教員が地域で活動することはよくあることという認識まで持っていきたい。 ・ 地域と学校の連携は重要だと学んだ学生が、これから教員になっていく。そんな若い先生が増えていくと、地域との連携に否定的な先生方も変わっていくと思う。	

▶自己評価の方法について

- ・評価指標というのは、実際にしてみないと分からないところがある。実施して、現場の意見を聞きながら現場に合った評価項目を考えていくのがよい。
- ・自分たちだけで評価することで、手前味噌にならないかという懸念がある。やはり、第三者に地域を見て評価してほしいという思いはある。
- ・内容は非常に細かいが、最終的な評価としては次に活かせるチェック項目になっている。
- ・点数化した方が見やすく整理しやすいが、こういった視点で振り返って熟議してくださいというようなコミュニケーションのツールとして使っていただくことも一つの方法だと思う。話し合いをしていただいた結果を求めるのもよい。
- ・評価という言葉ではなく、分析または振り返りといった言葉にしてはどうか。

▶今後の事業について

- ・コミュニティスクールと地域教育協議会がどう機能していくのかが、これからの奈良市の課題。
- ・地域の方が校長先生と一緒に教育方針を作って認識していくと、校長先生が変わってもその教育方針は引き継がれていく。学校運営協議会委員や地域の方が、学校がどんな学校になろうとしているのかを、どう自覚的に捉えていくのかが今後の課題。地域の方にそんな意識を持ってもらうには、熟議を重ねていただき、かなりの時間が必要となる。
- ・予算の使い方やこれからの事業について、働き方改革も考慮し、教職員の思いも引き出して繋げながら、事業について考えてほしい。